

D-6 乳幼児健全育成のための諸要因の分析的研究 (その3) 家庭における保育機能の研究
お茶の水女大家政 津守真 日本女大家政 宇川雅子 大阪樟蔭女大芸 西本信 大津女大家政 千村幸代子 京大家政 磯島田隆 川崎

目的 家庭の機能のうちでも、保育に關する機能は重要な意義をもっている。そして、保育機能は社会の文化的、経済的發展によつて変遷し、それに伴つて乳幼児の家庭における保育のあり方も変化していかなければならない。そこで、家庭の保育機能に大きな影響を与えると思われる家庭の物理的・経済的環境、親の教育観、親の児童観、親の社会観などについて調査をおこなつた。

方法 (その1)(その2)と同様の方法により調査・分析した。

結果 (1)子どもが生まれる前段階では、殆んどの母親が幸福(68.2%)で、まわりのものから祝福されて結婚(73.8%)しているが、職業をもつ母親や、學歷の低い母親では必ずしもそうでないものがかかなりみられる。(2)現代の母親は、子どもは経済的条件や住宅事情が整つた場合に、計画的に出産するものだ」と認識し、神様から授けられたという意識は低いようである。(3)子どもを育てることの意義は、「育てること自体に楽しみがある」というものが多く、「家系を存続させるために」というものは少ない。また、「親がいなくても育つ」というものが24.6%もあり、子どもの教育の責任者は「個人と国家の責任である」というものが75.7%となつている。これらの傾向は學歷の高い母親に顕著にみられる。(4)子どもの幸・不幸は「子ども自身にある」というのが12.5%、「親にある」とするものが57.5%、「国や社会にある」とするものが22.1%となつている。(5)子どもに将来どのような人間になつて欲しいかについて、「金や名譽を考えず自分にあつた暮らし方をして欲しい」というものが40%であつた。